

ラウンドテーブル 13:00-15:00 会場—3 1号館 1403 教室

## タテ線譜・ユリディスとは何か - IV —現状・課題・将来—

和智 正忠・阿方 俊

はじめに

第一回目のラウンドテーブルでは、「さまざまな視点からタテ線譜メソッドを考える」のサブタイトルの下、シニア世代から小・中学生に至る広い世代でこのメソッドの試みが報告された。第二回目ではそのⅡとして、「シニア世代から小学生にまで広がったメソッドの実践報告」のサブタイトルの下で、いろいろな実践例を通して情報交換を行った。第三回目では、中間発表の意味合いも持たせてそのⅢでは、① タテ線譜メソッドの「教材と指導」、② 五線譜からタテ線譜への「変換研究」の現状、③ タテ線譜メソッドでの「自動伴奏、ユリディスの活用」の3つの視点を通してこのメソッドとは何かを考えたい。今回は標記のようなメインタイトルとし、それらに関連する分野の進展状況について共有し、そして実際の利用現場における有効性や課題について検討する。

報告者：

タテ線譜メソッドの現状と課題；阿方 俊(平成音楽大学)  
ユリディス活用の現状と課題；齋藤 康之(木更津工業高等専門学校)

話題提供者：

五十嵐 優、太田 恵美子、小澤 真弓、橘川 琢、小熊 達弥、坂井 康二、永田 晃弘、  
戸引 小夜子、坂 利美ほか

企画・コメンテーター：阿方 俊(平成音楽大学)

ファシリテーター：和智正忠(医学・音楽研究者)

書 記：齋藤康之(木更津工業高等専門学校)

1. 開会あいさつとラウンドテーブル進行について(5分)・・・・・・・・・・和智 正忠
2. 参加者自己紹介(氏名、所属など15分)・・・・・・・・・・参加者
3. メインテーマ関連スピーチ(20分)
  - ・タテ線譜メソッドの現状と課題・・・・・・・・・・阿方 俊
  - ・ユリディスの現状と課題・・・・・・・・・・齋藤 康之
4. 話題提供とQ & A(40分)
  - ユリディス活動の多様化のいろいろな可能性・・・・・・・・・・五十嵐 優
  - 自動伴奏でモーツァルトピアノコンチェルトを弾いての感想・・・・・・・・・・太田恵美子
  - NPO法人「歌のボランティア・いちかわシャンテ」の将来・・・・・・・・・・小澤 真弓
  - 音楽療法分野からみたユリディスの意義・・・・・・・・・・橘川 琢
  - 電子楽器の音質についての試み・・・・・・・・・・小熊 達弥
  - ユリディス活用の発展としてのハーモニカ・・・・・・・・・・坂井 康二
  - タテ線譜によるシニアへの鍵盤導入の試み・・・・・・・・・・戸引 小夜子
  - 産学共同研究の重要性・・・・・・・・・・永田 晃弘、
  - 金沢など地方での自動伴奏の可能性・・・・・・・・・・坂 利美
  - その他・・・・・・・・・・参加者
5. まとめ(含、今後の方向性40分)・・・・・・・・・・和智 正忠  
参加者全員アドバイザー：嵯峨山茂樹(明治大学)

## <ラウンドテーブル参加者>

### 話題提供者：

- ・五十嵐 優（音楽ユニット「L i c k L u c k（リックラック）」  
昭和音大のタテ線譜を用いたピアノ導入講座開設当初からアシスタントを務め、コンピューターで五線譜をタテ線譜に変換してきた。現在、ユリディスの多角的活用を実験中。
- ・太田恵美子（日本音楽舞踊会議）  
桐朋学園音楽講師、二期会ロシア歌曲研究会などを経て音舞会会員。東京交響楽団などとピアノコンチェルトを協演。最近、自動伴奏「ユリディス」<sup>注-2</sup>に興味を持ち実践に加わる。
- ・小澤 真弓（いちかわシャンテ）  
高齢者施設を訪問し、ともに唱歌・童謡を歌うNPO法を主宰。シニアボランティアのためのキーボード講座でタテ線譜を使用。施設訪問活動での電子キーボードの効果的使用法を研究中。
- ・橋川 琢（日本音楽舞踊会議）  
作曲家。文部科学省音楽療法専門士。「文化庁 本物の舞台芸術体験事業」「文化庁 文化芸術による子供の育成事業」等に作品が採択。日本音楽舞踊会議理事。季刊「音楽の世界」編集長。
- ・小熊 達弥（小熊スタジオ）  
中野にある小熊スタジオは3D音響システムを有する最先端スタジオ。今般ユリディスシステムによるモーツァルトピアノコンチェルトを3D音響での再現に成功。その一端を披露する。
- ・坂井 康二（厚木市市民活動ネットワーク）  
タテ線譜を用いたピアノの導入講座（昭和音大）でピアノに接するようになる。高齢者施設でコンピューターを活用した歌唱活動は500回を超す。現在、ユリディスの多様な活用に専念。
- ・戸引 小夜子（日本音楽舞踊会議）  
国立音楽大学ピアノ科講師を経て、現在「夜の会」主幹、音舞会<sup>注-1</sup>副理事長。今夏、性格の異なるシニア2名にタテ線譜によるピアノ導入を試みた。
- ・坂 利美（音楽講師）  
元ヤマハ音楽教室講師。受け手として発生した想いを演奏に託したいシニア世代の、音作りの先達であり共生者。タテ線譜メソッドや自動伴奏ユリディスの将来的可能性に興味を抱く。
- ・永田晃弘（ローランド株）  
電子楽器の製品開発を担当。今まで「ユリディス活用の集い<sup>注-3</sup>」に参加してきたが、今回、産学共同研究を視野に入れた情報収集の目的で参加。

### 企画・コメンテーター：

- ・阿方 俊（平成音楽大学）  
タテ線譜の考案者。タテ線譜による鍵盤楽器入門書“Self Study”（Hal Leonard）を執筆。アジア・パシフィック電子キーボード協会）を通してアジアへのユリディス紹介を模索。

### ファシリテーター：

- ・和智正忠（医学・音楽研究者）  
娯楽的な音楽活動が勤労者、学生あるいは慢性疾患患者に及ぼす心理的及び生理的効果について実証的研究を行った。現在、特養老人ホームにおいてグループドラミングを実践中。

### 書 記：

- ・齋藤康之（木更津工業高等専門学校）  
SMF（Standard MIDI File）からのタテ線譜への変換、ユリディスの機能拡張、タテ線譜とユリディスを組み合わせたピアノ初心者向け練習システムなどについて検討中。

注 - 1 音舞会（オンブカイ）は日本音楽舞踊会議の略称

注 - 2 嵯峨山茂樹（明治大学教授、東京大学名誉教授）によって考案された自動伴奏システム

注 - 3 ユリディスが音楽の現場でどのような活用の可能性があるのかを考える集まり。今まで、5回の集いを開催